

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年 月 日記入

基本目標	学びあいあたたかさのある福祉文化都市をめざして	施策コード	16220
政策名(章)	第6章 彩りのある市民文化を創造します	評価担当部	生涯学習部
基本施策名(節名)	第2節 郷土意識づくりの推進	評価担当課	文化財保護課
施策名	文化財の保存と活用	課長名	大貫英明

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

史跡「勝坂遺跡」、「田名向原遺跡」をはじめ数多くの文化財は、郷土の先人の歴史と文化を今日に伝える貴重な文化遺産であるが、地域コミュニティ及び市民の価値観の変化に伴い、これら地域の文化遺産の継承を困難な状況にしていることから、文化財を将来の市民に引き継ぐとともに、現代生活に活用していくため保存と活用を目的としている。

文化財の保存は、史跡の整備、埋蔵文化財の発掘調査、文化財の指定・登録並びにその管理を通じて、文化財の継承を進めており、その活用については、古民家園を活用した伝統文化事業の実施や史跡めぐり・遺跡見学会等の活用と普及事業を行っている。また「パートナーシップによるまちづくり」の観点から市民ボランティア「文化財調査・普及員」の育成を図り、市民の主体的文化財保護活動を支援する。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		74,790	遺跡公園整備の推進 指定・登録文化財数の増 など
人件費		56,350	
市民一人あたりの事業費	68	197	
合計	41,858	131,140	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

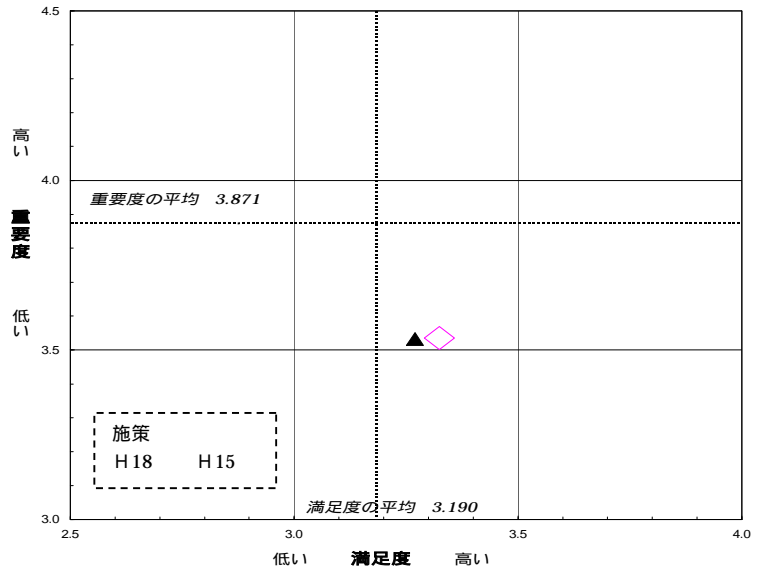
3 成果・活動指標

指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1 指定・登録文化財数	相模原市文化財の保存と活用に関する条例に定められている「市指定文化財」「市登録文化財」件数	31件	13
指標2 包蔵地内確認件数による埋蔵文化財保護率	包蔵地の周知の徹底と埋蔵文化財の保護に努めるため、事前相談による土木工事等の把握。相談数の増加により埋蔵文化財保存指導機会の増加	2505件	14
指標3 文化財普及事業市民参加数	保存している文化財をより身近に感じ郷土への愛着を深めるきっかけとしていただくため、各種事業を実施した際の参加人数	7196人	14
指標4 文化財調査・普及員登録者数にみる市民参加定着率	文化財の調査・普及に関し市民ボランティアとして活動されている登録活動者数。登録希望者÷登録活動者	60.30%	16
指標5			

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	73 / 73	19	88	21	103	市指定・登録文化財の累計数を地域文化の保存につとめる指標とする
達成率	100%					
指標2	4400 / 4436	19	4,600	21	4800	年間に受け付ける相談件数を包蔵地の周知の徹底と埋蔵文化財保護の努力指標とする。但しホームページの活用などで相談者の利便を図っているため、窓口件数は微増を目標
達成率	100.8%					
指標3	7200 / 7271	19	7300	21	7500	古民家園事業、史跡活用情報発信事業、民俗芸能大会などの参加者数により郷土意識作りの推進をはかった指標とする
達成率	101%					
指標4	60 / 50.8	19	63	21	65	市民とのパートナーシップを推進し、活動を継続していただくことで経験豊富な人材の確保をはかり文化財の保存と活用につとめる
達成率	84.7%					
指標5						
達成率						

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.325で51施策の中で8番目。
 重要度は3.535で44番目である。
 改善要望度は - 0.3330で47番目である。
 年齢別にみると、満足度、重要度ともに50歳代以上で高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位が上がり、重要度は大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、20、30歳代で前回調査より大幅に上がっている。
 重要度の順位では、30歳代で前回調査より上がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的な根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	4②1	・指定・登録文化財は、文化財調査の成果に基づき、保存と活用を要するものを毎年指定・登録を実施した ・埋蔵文化財包蔵地の保護は、目標に従い事前相談や協議を市民の理解を得ながら実施した。 ・文化財普及事業は、古民家園事業のPR(広報・新聞・FMなど)を行い、参加者数の増を図った ・文化財調査・普及員は、地区別偏差を解消するため、公募を行い講習会を実施した。	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	④21	・文化財の指定・登録は、登録文化財制度を活かし地域の歴史を知るために必要な文化財を登録した。 ・文化財の指定・登録や普及事業は、広報・新聞・FM・ケーブルTVなどへの記事提供等を積極的に行った。 ・埋蔵文化財については、ホームページの充実により保護施策の内容や包蔵地の周知を図った。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4②1	・文化財普及事業は、各事業でアンケート調査を行い、親子や、子どもの参加に視点を置いた事業内容などを視点に企画運営を行った。 ・文化財調査普及員の事業スタッフとしての参画を募るなど、市民の視点からの事業づくりを行った。	
合計		8	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	文化財の保存と活用
解決策	文化財の保存の意義を広く市民にPRし、市民の実生活に活用できる施策を展開する

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

具体的な解決策を検討し、課題の克服に努め、今後は、合併後の施策のあり方を検討する必要がある。	2次評価 B
--	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

文化財の保存と活用

コード 16220

構成事務事業一覧

構成事務事業	事務事業 担当課	H15施策 の 優先順位	H15人員 (人)	H14決算額 (千円)	H18施策 の 優先順位	H17人員 (人)	H17人件費 (千円)	H17事業費決 算額(千円)	H17決算額 (千円)
文化財調査費	文化財保護課	法	2.00	10,132	法	2.00	16,100	17,041	33,141
文化財保護管理費	文化財保護課	1	2.00	3,191	4	1.00	8,050	10,265	18,315
文化財保護審議会経費	文化財保護課	2	0.50	4,591	3	0.50	4,025	386	4,411
田名向原遺跡保存整備事業	文化財保護課	3	1.00	10,762	1	1.50	12,075	38,667	50,742
勝坂遺跡保存整備事業	文化財保護課	3	1.00	12,189	1	1.00	8,050	5,958	14,008
文化財普及事業(古民家園 事業)	文化財保護課	5	0.50	993	5	1.00	8,050	2,473	10,523
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
							0		0
	計		7.00	41,858		7.00	56,350	74,790	131,140
	合計		7.00	41,858		7.00	56,350	74,790	131,140

